

氏名	まるやま しょう 丸山 祥
所属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻
学位の種類	博士（作業療法学）
学位記番号	健博 第 228 号
学位授与の日付	令和 4 年 3 月 25 日
課程・論文の別	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題名	作業療法のクリニカルリーズニング自己評価尺度（SA-CROT）の妥当性と信頼性の検討
論文審査委員	主査 教授 ボンジェ・ペイター 委員 教授 小林 法一 委員 准教授 宮本 礼子

【論文の内容の要旨】

緒言：クリニカルリーズニングは、作業療法実践の複雑な課題に対処するための重要なコンピテンシーとして位置づけられている。作業療法学生と作業療法士のクリニカルリーズニング学習・教育を導くためには、経験的学習のための自己評価が重要である。丸山らは、

概念分析で特定された 4 つの思考プロセスに基づいた OT のクリニカルリーズニング評価尺度（Assessment scale of Clinical Reasoning in Occupational Therapy；以下，A-CROT）を開発した。本研究では，A-CROT の自己評価尺度（Self-Assessment scale of Clinical Reasoning in Occupational Therapy；以下，SA-CROT）の妥当性と信頼性を検討した。

方法：本研究は，尺度開発の国際基準を参考に SA-CROT の構成概念妥当性（構造的妥当性，仮説検証）と信頼性（内的一貫性，再検査信頼性）を検討した。研究対象者は，臨床実習経験のある作業療法学生 135 名と臨床経験 3 年程度までの作業療法士 138 名だった。データ収集は郵送法を用いた。再検査信頼性の調査間隔は 1 週間とした。データ分析では，記述統計量を算出し，天井効果と床効果を確認した後，SA-CROT がラッシュモデルに適合するか検討した。そして，ラッシュモデル適合後の SA-CROT に対し，確認的因子分析，仮説検証，再検査信頼性を検討した。

結果：本研究の調査配布は 504 名，回収は 273 名，回収率 54.0%だった。再検査信頼性の調査は，273 名中 60 名で，回収率 22.0%だった。分析の結果，SA-CROT の当初の 40 項目から，項目適合度や特異項目機能，局所独立性の観点から，14 項目に洗練され，5 つの評定段階と併せてラッシュモデルに適合した。また，確認的因子分析では 4 因子モデ

ルが適合した。また、仮説検証で予測した結果が得られ、尺度の妥当性が確認された。再検査信頼性と内的一貫性で基準値を満たし、尺度の信頼性が確認された。

結論: 14 項目と 5 つの評定段階からなる SA-CROT の構成概念妥当性 (構造的妥当性, 仮説検証) と信頼性 (内的一貫性, 再検査信頼性) が確認された。今後, SA-CROT の名称は, 14 項目と 5 段階評定版を指すものとする。今後の課題として, SA-CROT の尺度の基準関連妥当性, 異文化妥当性, 反応性, 解釈可能性の検討等が挙げられる